

牛久：学校周辺に見る自然

第16号

ひたち野みずべ公園（ひたち野うしく小）

2021年9月18日発行

＜ 初夏のみずべ公園 ～その他の植物＞

今回は、ここまでで取り上げなかった植物について、簡単に紹介します。

まずは、樹木から。花が咲いていたのは、ヤマボウシとハクチョウゲ、シラカシ。ヤマボウシの白く大きな花びらのように見えるのは「総苞」という葉の変化したもので、本当の花は、まんなかに多数かたまっています。ドクダミの白い花びらに見えるのもそう。おなじみのタンポポなら、花の下についているたくさんの細長いガクのようなものがこれにあたります。またシラカシは、同じ木にオスの花とメスの花がついています。一つひとつが小さいので、虫めがねで観察しましょう。



開花中のヤマボウシ(左)とハクチョウゲ(右)。ヤマボウシの白い花びらのようなのは、葉の変化したものだ。



シラカシの雌花(左)と雄花(右)。

次は、果実です。春に咲いていたサクラは、実がだんだんと大きくなり、熟し始めたものもあります。3月に咲きだしたオオカンザクラはもう黒く熟して鳥が食べに来ていましたが、4月に咲いたヤマザクラはまだ赤みを帯び始めたところでした。そして、3年生の観察から4年生の観察まで10日ですが、たった10日で熟した実が増えていました。その他、鳥が食べてタネを運ぶものでは、ウグイスカグラもおもしろいように真っ赤に熟してしまっていました。ヒイラギナンテンも熟し始めていました。



オオカンザクラ(左:5/10 右:5/20)

ヤマザクラ(左:5/10 右:5/20)。



真っ赤に熟したウグイスカグラ(左)と、熟しはじめのヒイラギナンテン(右)。

中には、風でタネが運ばれる植物もあります。綿毛をつけたタネが、ふわふわと飛んでいました。タンポポみたいだけど、ちょっと違います。落ちている枝もありました。アカメヤナギです。熟すと、綿毛で風に乗って運ばれるのです。

どんぐりは、どうでしょう？コナラのまだ小さい実がふくらみ始めていました。



熟して綿毛のついたタネを飛ばすアカメヤナギ(左)と、ふくらみ始めたコナラのどんぐり(右)。

次に、草です。花が咲いていたのは、アメリカフウコ、クレソン、ユウゲシヨウ、ニワゼキシヨウとオオニワゼキシヨウ、シロツメクサとムラサキツメクサ、ヤセウツボ。どれも、外国から来た帰化植物です。シロツメクサとムラサキツメクサは似てますが、どこが違うでしょう？シロツメクサは長い柄の先に花がついていますが、ムラサキツメクサでは花のすぐ下に葉がついています。そしてその葉のふちは、シロツメクサではギザギザがありますが、ムラサキツメクサは毛がはえていますね。ムラサキツメクサの茎には毛がたくさんはえていますね、シロツメクサにはありません。よく見ると、けっこう違いが見つかりますね。ニワゼキシヨウとオオニワゼキシヨウはどうでしょう？



ヨーロッパ原産のムラサキツメクサ(左)とシロツメクサ(右)。

北米原産のオオニワゼキシヨウ(左)とニワゼキシヨウ(右)。



アメリカフウロ(左:北アメリカ原産)とクレソン(中:ユーラシア大陸原産)、ユウゲショウ(右:南アメリカ原産)。
 その他、ケキツネノボタン、ニガナ、キンラン、オオバコも咲いていました。



ケキツネノボタン(左)とニガナ(中)、キンラン(右)。いずれも、日本に元からある植物。

実になっていたのはセイヨウタンポポ、チガヤ、タチツボスミレ、カラスノエンドウ、ヘビイチゴとヤブヘビイチゴ。草のタネも、運ばれ方はいろいろです。調べてみましょう。【理科支援員 宮内】



チガヤ(上左)とタチツボスミレ(上中)、カラスノエンドウ(上右)。ヘビイチゴ(下左)とヤブヘビイチゴ(下右)。